

第4号議案 2025年度事業計画

1. 総務委員会

総務委員会は、理事会の下で各委員会と協力して学会活動を円滑に進めていきます。今年度の主要な活動計画は以下の通りです。

1) 財政

事務局が(株)国際文献社に変更され、これまでとは収支の状況が変わりますので、トータルの収支バランスの改善を図りつつ、事業に取り組んで参ります。具体的には、収入の維持・増加のため、会員増強活動としてシンポジウムやフォーラム等のイベントを開催し、各種媒体での告知を行い、非会員の参加者数の増加や入会の促進を図ります。また、各行事の黒字化を目指して支出を抑えます。

2) 会員増強

関連委員会との協力の下に会員増強を進めます。春季、秋季の信頼性シンポジウム、フォーラム、見学会、関西支部講演会および研究会等の活動を活発に行います。特に、フォーラムや見学会では、社会のトレンドを捉えたテーマや見学内容を選定し、本学会の魅力を高めていきます。また、非会員の参加者数の増加を含め、本学会の存在を広く認知させます。

3) フォーラムおよび見学会の実施

会員のニーズに沿う、かつ新規会員の獲得に貢献できるような本部主催のフォーラムおよび見学会を実施します。フォーラムについては、遠方からの参加を促進するため、オンラインまたはハイブリッドの開催を行います。また、質疑や画面共有の方法など、より良い実施方法を検討いたします。

4) 関係学会等との協力

新規会員の獲得、会員の発表および情報収集の場の提供のため、関係学会等との協力を行います。

安全工学シンポジウム 2025 および 2026 の開催準備に参画します。また、第16回および第17回の横幹連合コンファレンスに参画します。また、電子情報通信学会と IEEE Reliability Society Japan Chapter と協力し、信頼性研究会等を開催します。

5) 国際交流

2025年7月に中国・内モンゴル自治区・フフホト市にて開催予定の、The 15th International Conference on Quality, Reliability, Risk, Maintenance, and Safety Engineering (QR2MSE2025) に協賛いたします。本学会からは、土肥正氏(元会長)が Honorary Chair、早川有監事、井上真二氏、金路氏、田村慶信理事、Xiao Xiao 氏が Technical Program Committee Member として参画し、国際会議の盛会にむけて支援いたします。

2025年も韓国信頼性学会との連携した活動を実施いたします。2025年6月19日~20日に韓国・済州島で開催予定の KRS Spring Conference に土肥正元会長、木村会長、早川監事が参加します。

また、2025年度も若手学会員を対象に、海外で開催される国際会議にて講演するための渡航費用等を補助するための国際交流助成金の募集をいたします。

2. 広報委員会

2025年度は学会HPの見直しに向けた検討をいたします。

3. 編集委員会

編集委員会で検討した2025年度の年間計画(案)を下表に示します。紙媒体を廃止(フルデジタル化)します。会員サービスの向上に向けて、引き続き記事の企画、コラム欄の活用なども検討・実施して参ります。特に、経産省の標準化担当部門と連携し、「国際規格・標準化」と技術の関連性に関して議論展開するコラムの掲載にも取り組みます。

発行済学会誌に掲載済み論文等のオンライン公開(J-Stage)作業を進めます。

発行年	発行月	種類	内容・テーマ
2025年	7月	展望	革新的半導体 Chiplet (案)
	10月	展望	保全性 (案)
2026年	1月	展望	検討中
	4月	展望	検討中

4. 論文審査委員会

2025年度の計画を以下に示します。

- ・2025年度は8編以上の論文投稿の受付、5編以上の論文掲載を目標といたします。
- ・高木賞候補論文の選考を行います。
- ・研究分野の拡大に対応して、より多くの論文が投稿されるように、引き続き投稿推奨の方策について検討します。
- ・信頼性学会誌からより有効な情報・優れた論文の発信を目指し、掲載論文数の増加を図ります。そのため、論文管理方法の効率化と審査プロセスの迅速化を実現する方策について検討します。

5. シンポジウム実行委員会

第33回春季信頼性シンポジウム(一般発表)を2025年5月20日に対面とオンラインを併用するハイブリッド形式で開催する予定です。会場及び設備の確認等の開催準備と運営、プログラムの編成等を行う予定です。第38回秋季信頼性シンポジウム(特別講演および一般発表)及び第34回春季信頼性シンポジウム(特別講演および一般発表)の開催準備、運営、プログラムの編成、各シンポジウムの優秀賞の候補件名及び若手奨励賞の候補者の選考を行います。なお、シンポジウム当日は、会場設営、シンポジウム運営及びセッションの司会を務めます。

- 1) 第33回春季信頼性シンポジウム(2025年5月20日 ハイブリッド開催予定)
- 2) 第38回秋季信頼性シンポジウム(日時・場所・特別講演:未定)
- 3) 第34回春季信頼性シンポジウム(日時・場所・特別講演:未定)

6. 研究会運営委員会

研究会活動を活性化し、成果に結びつけるため、以下の活動を継続して実施します。

- ・学会ホームページ等による各研究会活動の PR
- ・研究会活動の成果発表を推進
 - －春季・秋季信頼性シンポジウム
 - －信頼性フォーラム
 - －学会誌
 - －日科技連信頼性・保全性・安全性シンポジウム
 - －安全工学シンポジウムなど

各研究会の 2025 度活動計画は以下の通りです。

1) 安全学研究会（主査：柴垣光男氏）【第 1 種】

(1) 活動内容

各分野における安全のための固有技術，原理，原則等を，分野を越えて共通するものと各分野に固有のものとの類型化，体系化することによって，安全学の発展に資することを旨として議論を展開します。

(2) 計画

4 回（4 月，7 月，10 月，1 月）の研究会の開催を予定しています。

(3) 発表

2025 年 6 月に安全工学シンポジウム 2025 にて発表を行います。

2) 信頼性試験研究会（主査：松岡敏成氏）【第 2 種】

(1) 活動内容

- ・チュートリアルによる信頼性試験計画の基礎学習の継続を進めます
- ・昨年度からの継続で，セット・モジュールレベルの信頼性試験の検討を進めます

(2) 計画

年 6 回（4 月，6 月，8 月，10 月，12 月，2 月）の開催を予定しています

(3) 発表

- ①研究会の研究テーマ（セット・モジュールレベルの信頼性試験）に関連した講演会を提案
- ②関西支部信頼性フォーラム企画
- ③信頼性シンポジウム発表
- ④2023年度以降チュートリアル内容のまとめ，学会誌への投稿も検討します。

3) 要素技術安全研究会（主査：川島 興氏）【第 2 種】

(1) 活動内容

産業機械，自動車，住宅など幅広い分野に広がった機能安全に関連する規格，法規制及び技術動向を捉え，適切な機能安全の適用に資するための活動を行います。

とくに，IEC 61508，及び安全関連制御に機能安全を適用する関連規格（総合信頼性，産業機械，ロボット，自動運転，AI 等）の調査を通じて，機能安全規格の理解を深めるとともに課題を顕在化させます。また，安全に関する幅広いトピックスを題材にディスカッションを行い，知見を広めます。

(2) 計画

年 5 回 (5 月, 8 月, 11 月, 1 月, 3 月) の開催を予定しています.

(3) 発表

- ・ 秋季信頼性シンポジウムで活動報告
- ・ 電子情報通信学会信頼性研究会発表 12 月

4) 故障物性研究会 (主査: 佐藤博之氏) 【第 2 種】

(1) 活動内容

研究会の目的に沿って研究会活動を継続し, 社会貢献, 会員各社への情報還元, 新規会員の増強を図ります. そのために研究会内容の充実や情報発信を進めます.

(2) 計画

年 6 回 (4/25,7/4,8/29,10/24,12/19,2/27) の開催を予定しています, 例年と同様に会場とオンラインのハイブリッド開催です. 実行委員会 (web) において, 研究会プログラム作成, 研究会活性化の検討, 新たな研究グループの立ち上げの検討を進めます.

(3) 発表

- ・ 春季・秋季信頼性シンポジウム
- ・ 信頼性フォーラム

5) 半導体デバイス故障解析研究会 (主査: 二川清氏) 【第 2 種】

(1) 活動内容

半導体デバイスの故障解析技術の分野において活動を行っている技術者・研究者に限定して, 高度な技術・研究レベルでの, 密度の高い討論を行います.

- ・ 研究員が研究中の最新技術の紹介
- ・ 研究会以外からの招待講演
- ・ 他の研究会, 国際会議, 国内会議, 論文などで発表された研究・技術

などをベースに, 活発な, 忌憚のない議論を行い, 研究員相互のレベルアップを図りその結果として日本の半導体デバイスの故障解析技術のレベル向上に寄与することを目的とします.

(2) 計画

年 2 回の開催を予定しています, 日時・場所・発表者は未定です.

(3) 発表

研究成果の発表予定はありません.

7. 表彰委員会

本年度も表彰委員会を開催し, 以下を審議します.

- 1) 2022 年 1 月号から 2025 年 10 月号の間に学会誌「信頼性」に掲載された論文の中から, 高木賞を選定するための審議を実施します.
- 2) 第 33 回春季信頼性シンポジウムにおける発表論文の中から, 優秀賞と若手奨励賞を選定するための審議を行います.

